

# 子連れオリエンティアのおびにおん 子連れML「Familj」管理者 羽鳥 亜希子

O - マガジン購読者の皆様、はじめまして。Orienteering.com で子連れMLの管理者をやっている羽鳥（通称：せお）です。今回は子連れでオリエンテーリングの大会に参加している一オリエンティアとして、MLで話題になる内容を織り交ぜながら「オビニオン」してみたいと思います。

「子連れ」といっても形態はさまざまで、やっと首が据わったくらいの乳飲み子から、中高生まで「子ども」を連れて大会に参加するオリエンティアは数多くいます。かつての「子ども」達で、今やオリエンティア2世としてトップエリートで活躍する選手が多くいらっしゃるの、皆さんもご承知のことでしょう。今回はそんな子ども達の成長を追いながら、その時々嬉しいこと、困ったことなどを書いてみたいと思います。

## 赤ん坊時代（0歳～4歳？）

オリエンティアの子どもは大会会場デビューは早くて生後3ヶ月から。とにかく知り合いに赤ん坊を見せびらかしたくてしょうがないのです。さて、かわいい我が子もおすわりができるようになってきて、少し手が離れるようになると、オリエンテーリングをやりたくなってきます。レースをしている間子どもをどうするか？が最大の問題です。この問題への対処の仕方は2つに分かれます。

### 夫婦のどちらかしかオリエンテーリングをしない

この場合、子どもを家に置いてきたり、家族で会場に来て片方に子どもをみてもらえたりできるので、問題はあまり大きくありません。家族の理解があれば、オリエンティアがお母さんの場合、大会に参加するのは月1回と約束して理解を得ているとか、お父さんの場合は、奥さんの冷たい目に見送られながら大会会場に来ているとか、苦労話は絶えないようです。

### 夫婦ともオリエンテーリングをする

この場合は、問題がありますね。みなさん苦労しているようです。大会に申し込むときに、夫婦間のスタート時刻をある程度離してもらえようをお願いしたりもしますが、競技の公平性という点で反対意見もあり、使いづらい手です。たとえお願いできたとしても、大会前に届いたプログラムに「スタートまで徒歩40分、ゴールから会場まで徒歩30分」なんて書いてあったら、絶望的です。託児所が無い大会の場合、次に使う手は知り合い同士で「私設託児所」を設けることです。しかし、私設託児所を企画しても、必ず大会に参加できる保証は無く（子どもはいつ体調を崩すかわからないものです）、不安定な要素が多いですね。

最近では公認大会を中心として託児所を設ける大会が増えてきました。子連れ夫婦オリエンティアとしては嬉しい限りです。大会を運営される側にとって、託児所の設置は、スペース、人員、責任問題など制約が多く、躊躇する方が多いと思います。でも、今後できるだけ多くの大会で託児所が増えることを願ってやみません。そのためにも託児所設置の成功実績を多く積み、オリエンテーリング界に認知されるように、利用する側も努力しなければと思っています。

託児所に関して、最後にお願ひがあります。託児場所を女子更衣室内に置かれると、お父さんオリエンティ

アは子どもを引き取りに行きません。子どもを預けるのはお母さんだけとは限らないので、できれば女子更衣室には託児所を設置しないようお願いしたいと思います。小さな子どもを大会に連れて行くと、子どもの預け先の他に、荷物が多さ、長距離移動の大変さ、など苦労は様々です。親の身勝手に連れてこられる子どもも大変だと思うのですが、いつかこの子が大きくなって、一緒にオリエンテーリングを楽しめたら...と親は夢見ているのです（表彰台に子どもを抱いて立つ、なんて堪えられないですよ）。

## 子ども時代（5歳？～9歳？）

託児所のお世話にならなくても、お友達と遊びながら少しはお留守番できる年齢になってきました。そろそろオリエンテーリングにも触れさせたい年頃です。最近では各大会で工夫を凝らした子供用のコースなども用意されるようになり、嬉しい限りです。レースから早めに帰ってきた両親がグループクラスに子どもを連れ出す姿も見られます。でも、まだまだ自分ひとりではコースを回って行くことができません。一緒に廻っているお父さん、お母さんが頼りです。

そんな様子を見て思いつくのが、昔々O-RingenのO-Clinicに参加したときに見た「How to Learn Orienteering」（だったかな？）という本。子どもたちがいかにオリエンテーリングを教えるかという内容なのですが、最初に子どもに教えるのは、コンパスでも地図読みでもなく「森を走ること」だったのです。木に登ったり、ストリーマーに沿ってただ森を走ったりすることで、森に親しむことが一番ということが書かれていたように記憶しています。O-Ringenでも小さい子のクラスは、ストリーマーに沿って森を走るだけのコースだったと思います。森の近くに会場を取りにくい日本では実現が難しいかもしれませんが、そんな小さい子のクラスがあったらおもしろいになぁ、子どもたちも楽しいだろうなぁ、と考えています。

## オリエンテーリングデビュー時代（10歳～？）

恥ずかしいことに、国内の大会で最小年齢のクラスが何歳からなのか知識があまり無いのですが、10歳以上クラス（M10・W10）だったように思います。M10・W10クラスも公認大会くらいで、多くの大会は18歳以下のクラスとまとめられているようです。

できれば、オリエンテーリングに目覚め始めた子ども達が、人数が少ないながらも同年代同士で競う機会が多く持てるようになって欲しいと願っています。自分たちの世代のクラスで、少ない参加者ながらもメダルがもらえたりする経験があれば、次の大会へ親を飛び越えて参加するようになるかもしれません。

そして、いつかは日本を代表するオリエンティアに...親ばかオリエンティアの夢は果てしないのです。

## 最後に宣伝を。

子連れでオリエンテーリングを楽しんでいるオリエンティアの皆様。子連れML「familj」に参加しませんか？オリエンテーリングネタはもちろん、子育てネタでも大いに盛り上げられます。関心のある方は以下のアドレス宛てにお問い合わせください。

羽鳥 亜希子 chanman@pb3.so-net.ne.jp